

宇宙開発の現状報告

(平成 22 年 7 月 21 日(水) ~ 平成 22 年 7 月 27 日(火))

平成 22 年 7 月 28 日
宇宙開発委員会事務局

宇宙開発に関する国内の動向

- 小型ソーラー電力セイル実証機「IKAROS」の姿勢制御成功について
小型ソーラー電力セイル実証機「IKAROS」は、7 月 13 日(日本時間)に行った姿勢制御デバイス(液晶デバイス)によるソーラーセイルの姿勢制御実験において、想定通りの姿勢制御性能を達成していることを確認した。ソーラーセイルに貼り付けられている姿勢制御デバイス(液晶デバイス)は、電源の ON、OFF により太陽光の反射特性を変えることのできる装置。今後は、IKAROS での姿勢制御実験を継続して実施し、姿勢制御性能を詳細に評価するとともに、ソーラーセイルを用いてより遠くへ、より長期間航行することを可能にする技術の獲得を目指す。

宇宙開発に関する海外の動向

- ロシア連邦政府、ボストーチヌイ射場建設に 247 億ルーブルの予算割り当てを承認 【露】
7 月 19 日(月)、ロシアのプーチン首相は、エネルギー社本社で露宇宙産業界のリーダと会談。その場で、ボストーチヌイ射場の建設プロジェクトに今後 3 年間で 247 億ルーブル(約 8 億 1000 万ドル)を割り当てることを承認したと述べた。同会議には、イワノフ副首相、ロシア連邦宇宙局(FSA)のペルミノフ長官、エネルギー社社長などが参加。ペルミノフ長官によれば、ボストーチヌイ射場の建設プロジェクトには 5,000 ~ 12,000 人が携わり、同射場での雇用創出は最大 3 万人が見込まれる。
- 英 SSTL 社、カザフスタンの小型地球観測衛星の製造を開始 【英】
7 月 20 日(火)、英サリー・サテライト・テクノロジー(SSTL)社は、カザフスタンの小型中分解能地球観測衛星(Medium resolution Earth Observation Satellite : MRES、地上分解能 7 m)の製造を開始したと発表した。同衛星は、仏アストリウム社が製造する高分解能(1 m)地球観測衛星とともに、資源監視、資源管理、土地利用マッピングなどで利用され、カザフスタン政府の政策・決定に役立てられる。